

平成28年度第1回(栄養学・薬学・看護学・体育学)グループ合同委員会 議事概要
(栄養学・薬学)教育FD/ICT活用研究委員会
CCC(看護学・体育学)グループ運営委員会

I. 日時 : 平成28年7月29日(金) 13:00~15:00

II. 場所 : スクワール麴町 5階 寿

III. 出席者 : 栄養学教育FD/ICT活用研究委員会 武藤委員長、市丸委員、酒井委員、石崎委員、上田委員
薬学教育FD/ICT活用研究委員会 黒澤委員長、齊藤委員、松山委員、西村委員、大嶋委員、
大津委員、松野委員、徳山委員
CCC看護学グループ運営委員会 仲井委員、北委員、中山委員(スカイプ参加)
CCC体育学グループ運営委員会 大橋委員、田附委員
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 議事概要

1. 出席委員の紹介

委員会開催に当たり、栄養学・薬学・看護学・体育学の出席委員の自己紹介が行われた。

2. 報告・検討の概要

(1) 平成27年度の事業報告

事業報告書により、昨年度開催の分野別アクティブ・ラーニング対話集会の開催結果が報告された。

栄養学・薬学・看護学グループ

- ・ 昨年度は11月と1月の2回委員会を開催し、3月に51名が参加して対話集会を実施した。
- ・ 話題提供は以下の3件を行った
 - ① 地域企業との連携で地域活性化に取り組む共同授業の提案
 - ② 医療系学部連携チームによる地域参加型学習の取り組み
 - ③ 知識の創造を目指した多分野連携によるフォーラム型授業の提案
- ・ 対話集会で確認された主な意見は以下の通り

アクティブ・ラーニングのテーマ

- ① 地域参加型学修に参加する際には基礎的な知識・技能が身につけていることが必要。
- ② ピア評価は効果がある反面、評価する学生の負担増があり、評価の意義・役割について基本的なルールを事前に学ばせる必要性がある。

教学マネジメントのテーマ

- ① 課題解決型学修には、分野を越えた学修体験が重要であり、連携に向けたカリキュラム調整、合意づくりの取り組みが課題であること
- ② 初年次教育で他分野の学生と学ばせることは相互に刺激をもたらす効果が大きく、そのために教員が連携できるような学修環境を構築する必要性がある

体育学グループ

- ・ 昨年度は11月に委員会を開催し、1月に40名が参加して単独の対話集会を実施した。
- ・ 話題提供は以下の2件を行った
 - ① スポーツを通じた国際協力・社会貢献力を育む教育について
 - ② 国際協力におけるスポーツを通じた教育について
- ・ 対話集会で確認された主な意見は以下の通り
 - ① スポーツによる途上国での参加型・体験型授業は国際協力・社会貢献力を育み、効果的だ

が安全面・費用面での課題があり、経験のある大学との連携が非常に重要である。

- ② スポーツを通じて、支援・協力、社会貢献を経験させるフィールドワーク参加型アクティブラーニングは、学修成果が達成されたかを判断する評価基準が難しい。

(2) 平成28年度の活動計画について

平成28年度は、「ICTの利活用を含むアクティブ・ラーニングの教育・学修方法と教学マネジメントの改善対策を研究するため、継続して分野連携による対話集会を実施することとし、特に体験事例から成功・失敗の原因と対策を整理するとともに、分野の壁を越えて知識を組み合わせる創造型教育の必要性、授業科目の統合化などの課題について理解の促進を図ることが確認された。

そのため、分野連携グループを再編し、「栄養学、薬学、医学、歯学、看護学、体育学」の連携グループで研究することが確認された。

なお、医学分野は「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの現状と課題のまとめ」、歯学分野は「他業種連携によるフォーラム型教育モデルをとりまと」その後に栄養・薬学・看護学・体育学グループの対話集会に参加することが確認された。

3. 本年度の進め方、話題提供・意見交換テーマなどについての主な意見

以上の方針を確認した後にフリーディスカッションで本年度の対話集会の進め方、話題提供・意見交換のテーマなどについて検討した。主な意見は以下の通り。

主な意見

- ・ 最近の体育学教育は多くの大学で従来の体育教員の養成中心から、「健康を保つための体育・スポーツ」を主眼とする体育学教育に変わってきている。
- ・ 保健体育の言葉があるように、もともと体育と健康教育は近い関係にあり、「栄養学、薬学、医学、歯学、看護学、体育学」の連携グループで対話集会を行うことは有意義である。
- ・ このグループにおけるテーマとしては、健康増進のための予防を考えると、セルフ・メディケーションが良いのではないかと。
- ・ セルフ・メディケーションの言葉は「メディケーション」の意味が大きくなるか、概念として統一されているのは「健康サポート」ではないかと。
- ・ 関連分野でチームを組んだ時の現実的な問題として、知識の差によってリーダーシップが決まりがちな事が心配である。たとえば6年制の医・歯・薬学と4年制の栄養学、体育学が知識的に対等にやろうとすれば大学院となる。しかし、同学年の学生同士が共同でやることによって向上するようになることが望ましい。
- ・ 歯学では、例えば口腔ケア等はすごく重要であり、このようなテーマを関連分野が連携することによっていろいろな課題を皆で考えて解答を探る。それがネット上で出来ると非常にメリットがあると思われる。
- ・ 医学・歯学においては、教えるのではなく稚拙であっても出来るだけ学生に議論させることが大事である。本当に勉強したい学生にチャンスを与え、それが卒業教育で生きることが重要になる。
- ・ 今までの意見で方向性、イメージは固まってきたのではないかと。
- ・ モチベーションを持たせるために最初に映像を見せることから入ったアクティブ・ラーニングは、非常に効果的だった。モチベーションをつけた後は、主体的にかなりの事をこなしてくれた。
- ・ 最初は教員が引っ張っても良いが、学生には「自分たちでやってみよう」という土俵を与えてみるのがアクティブ・ラーニングとして非常に面白いのではないかと。
- ・ サプリメントと栄養の議論等もテーマとして考えられる。
- ・ 関連分野と連携して学び合うということは、学生だけでなく教員にとっても良い機会になるのではないかと。薬学は薬学で縦割り、看護は看護で縦割りという状況にある大学も多いのではないかと。教員同士が分野連携で学ぶことになったら素晴らしい。

- ・ 今は国家試験とか試験制度の中で教育が作られているが、現場の教員は必ずしも良しとしておらず、学士力の立場からは必ずしもベターではない。今の決められたコースよりももう少し学生たちに幅を持たせ柔軟な発想で物事を捉えられるようにしてあげるべきである。10、20、30年先のことを考えた教育提言をしていく、新しいパラダイムをつくる絶好の機会だと思われる。
- ・ この分野連携グループは非常に密接であり、関連分野と連携した学びの必要性を学生と共に教員も理解する。それをICTアクティブ・ラーニングに発展させてやることは絶対に必要と思う。

4. 対話集会のテーマ、話題提供について

- ・ 「健康維持、増進に向けた教育を「栄養学、薬学、医学、歯学、看護学、体育学」の分野連携で多面的に考える」が大きなテーマになるのではないかな。
- ・ そのうえで、授業の方略として「ICTを使って効果的にするにはどうしたらよいか」を提案していくのはどうか。
- ・ 動機づけの為に映像を用いた授業を考えても良いのではないかな。教員も作るし学生参加で映像を制作することも一案である。更にICTを使ってアーカイブ化していくという新しい発想の提案を出してもらえると議論になるのではないかな。
- ・ 素材と、素材を提案してくれる人、ICTを使ってアーカイブ化していくという新しい発想の提案をぜひ出してもらいたい。
- ・ 多職種連携については医学・歯学の委員会から「モデル授業」の話題提供をしてもらおう。
- ・ その他、教学マネジメントとしては、ファシリテータ、アクティブ・ラーニングでは評価(ルーブリック、第三者評価、外部評価)、主体性や協同性や多様性をどう評価するのかなども課題になる。

次回の委員会までに各委員は、「健康維持・増進」を題材にしたアクティブ・ラーニングの話題提供、意見交換の進め方について簡単なメモを事前に事務局にメールで送ってください。

栄養学、薬学、看護学、体育学からそれぞれ1つは出していただきたい。

5. 今後のスケジュール、次回合同委員会

今後のスケジュールイメージは、第2回目の委員会を9月後半から10月に開催し、12月ごろ対話集会。

各委員に開催候補日の都合をネットで伺うこととなり、

その結果、今回は「10月2日(日)13時~15時」に開催することとなった。

(開催場所：私学会館アルカディア市ヶ谷 7階予定)